

単元名 声に出して楽しもう

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむとともに、古典に触れることで昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。
 (3) 文語調の文章の言葉の響きやリズムに親しみ、音読しようとする。

標準的な展開例

06010113_001

【教材名】天地の文 (P. 66～P. 67)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「天地の文」を音読し、大まかな内容をつかむ。 ★特徴あるリズムを感じながら音読し、昔の人のものの見方や感じ方を知ろう。 ○「天地の文」の範読を聞く。</p> <p>○「天地の文」を音読する。</p> <p>○人の暮らしの基本となる時間や週日などの決め事について、書かれていることを理解する。 ○昔の人のものの見方や考え方を知る。</p> <p>○昔の人の考え方を知り、「天地の文」を音読する。</p> <p>○筆者の考えについて、感想を発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が「天地の文」を読み、特徴あるリズムについてつかませる。 ・CDの範読を聞かせてもよい。 ・分かりにくい言葉については、教科書(P. 67)で確認したり解説を加えたりする。 ・古文に慣れさせるために、繰り返し音読させるようにする。 <p>【評】「天地の文」を音読する活動を通して、言葉の響きやリズムを捉える「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章から1か月、1週間、季節、1年について理解させる。 ・「天地の文」の最後の部分から、福沢諭吉がどのように考えているかを考えさせる。 <p>【評】古典について解説した文章を読んだり、作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人の感じ方を知る「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すらすらとリズムよく音読させるように、ウッドブロックやカスタネットなどを使って、リズムを取る方法も考えられる。 <p>【評】音読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習時間を利用して音読・暗唱させたり学習の初めに声を出させたりする活動として継続的に行うことも考えられる。

【 備 考 】